

爆彈ヲ投シタルモ、皇帝ハ無事ナリキ、日本皇帝ハ眞ニ
 ニ氣、妻ナルモノ (Poor fellow) ナリ

トノ記事ヲ掲ケタルヲ以テ、總領事ヨリ市長ニ對シ
 該社長、來館公式謝罪ヲ嚴重申込ミシニ、
 市長ハ必ス至急謝罪セシムヘイト言明セリ

但レ翌日ニ至ルモ社長、來謝ナカリシヲ以テ、重キ
 抗議ヲ申込ミシニ、爾今決シテ不敬記事等ヲ
 掲載セサルニ付キ、社長、面子ヲ重シテ是非寛恕
 ヲ度旨萬謝セシカハ公式來謝ヲ強請セスシテ本
 件ヲ解決セリ、

ニ當地漢字紙ニ市党部ヨリ指導員ヲ派シ、廣東
 各種抗日救國會ヲ統一指導セシムル旨ノ記事掲
 載セラレタルヲ以テ、總領事ヨリ市長ニ對シ、嚴重抗

議スルト共ニ其ノ真相調査ト之カ取締リヲ要求セシム	三 廣東省各區綏靖署組織條例(附錄第二)公佈サル	四 伍廷賜上海ヨリ香港着	伍 ハ李宗仁白崇禧ノ命ヲ含ミ主トシテ廣西省ノ實業ヲ發展ニ當ル為メ一月十九日香港ニ發廣	西省ニ赴ケリ	四一 西南政務委員會組織條例(附錄第三)公佈サル	二 廣東省各界抗日會登記日貨發賣條例(附錄第三)公佈サル	五一 干右仁胡漢民ノ北上及西南三機關ノ成立存廢問題協議ノ為メ上海ヨリ香港着	二 陳策、林雲陔、駱廣	陳策ハ廣東省取着後直ニ病ト稱シテ頤養園
--------------------------	--------------------------	--------------	--	--------	--------------------------	------------------------------	---------------------------------------	-------------	---------------------

入院セリ、	八聞スルニ、陳ハ南京ニ於テ、孫科ヨリ海軍次長タレト 申込ニ對シ、確答ヲ保留シ來リ、香港ニ於テ胡漢 民ニ内談セシ所、胡ヨリ其ノ愚ヲ詰ラヒ、焦慮中ナリトイフ 三張惠長以下空軍將領連名ニテ左記要旨ノ通電ヲ發ス 如何ナル内戰ニモ參加セス、如何ナル個人ノ工具トモナラス、 唯身命ヲ國家ノ為メ捧ク武力ハ必ス民衆ノ為メ用ヒシ 斯言ツテ、一致決心、精誠ヲ宣示シテ共ニ國難ニ赴キ 我山河ヲ聖域ウセム、	四
四中央執行委員會西南執行部組織大綱(附錄第四) 公佈サル	五鄒魯中山大學校長ニ任命サル	
七一民政廳長林翼中省政府主席代理トナル		

	六	元
二西南各省國民對外協會第二次執監委員會 議主要決議左、如シ、 (一)福建省各公團聯合會、本會加入申出ヲ容認ス、 (二)執行委員ヲ至五名乃至四名、全候補委員ヲ 十名乃至至十八名、監察委員ヲ十名乃至十八名 全候補委員ヲ五名乃至至十名トス、 (三)鄧長虹ヲ外交組主任トス、 (四)機關紙トシテ西南日報社ヲ設立ス、 (五)周伯甘ヲ警備組主任トス、 (六)本會經費ノ不足ハ暫ク第四集團軍ニテ籌備ス、	一于右仁香港ヨリ來廣、	一伍朝樞香港ヨリ來廣、 二西南執行部及西南政務委員會委員ノ名ヲ

以テ左記ノ通電ヲ發ス、

統一政府成立セシニヨリ、廣州國民政府ハ前言ヲ
踐ミテ之ヲ取消シ同時ニ一中全會ノ接受セシ
四全大會ノ決議案ニ基キ、中央執行委員
會西部執行部及西南政務委員會ヲ設立
シ中央ノ指導ノ下ニアリテ、均權共治ノ責ヲ負
ハシムトス、

而シテ、本機關ハ廣州政府結束後一切ノ善後
事宣ヲ辦理スル為メ其ノ成立ヲ速ナラシムルヲ要
スルカ故ニ其ノ暫行條例及組織大綱ハ既ニ中央
ニ呈報シテ之ヲ審査ヲ待チツツアリ、

軍事分會ハ中央ニ於テ軍事委員會未ク
成立セサルカ故ニ中央ノ意志ニ遵ヒテ暫ク之ヲ成

立セス。然ルニ外間吾人、本台ヲ察セス、揣摩臆
測ヲ遑ウレテ、甚レキハ關稅ヲ差抑ヘ、西南ニ割據
セントス、等ノ無實、傳聞ヲナス、依リテ、深ク流言
ノ民衆ヲ混惑セシメン事ヲ恐レ、茲ニ特ニ聲明ヲ
發シテ、迷妄ヲ解クモノナリ。

今ヤ國是紛々タル、時ニ當リ、哲言ツテ、至誠ヲ以テ中
央ヲ擁護シ、共ニ國難ニ赴カン。

願クハ我同志國民ヨ、吾人ノ微忱ヲ汲ミテ、譟言ニ
惑サル、事勿レ、

唐紹儀、伍朝樞、陳濟棠、蕭佛成、鄧澤如
白崇禧、陳策、張惠長、余漢謀、香翰謀
李揚敬、繆培南、林翼中、黃旭初、李任仁
劉紀文、詹菊似、區芳浦、崔廣秀、關素人

程天固、十九日印、	三、本艦。ハ。香港ニ向ケ廣東發、一五。香港着 四、英國々旗ニ對シ禮砲ニ發、Wilcke Ransaanニ乗 艦佛國東洋艦隊司令長官O.B. Herz 中將ノ 將旗ニ對シ禮砲十五發、英國コモドールノ將旗ニ對 シ禮砲十五發ヲ施行ス、
一、本職英艦 (Commodore) 佛艦 Wilcke Ransaan 佛國東洋艦隊司令長官ヲ公式訪問ス、 二、佛國東洋艦隊司令長官公式答訪 全右ニ對シ禮砲十五發施行、 三、公式來訪ノ香港總領事代理ニ對シ禮砲七發 施行	

八

月曜	二	三	四	五	六	日	八	九	十	備考
日曜	二	三	四	五	六	日	八	九	十	備考
所行動	廣	廣	廣	廣	東	東	東	東	香港	別科ハ主トシテ運用術補習教育ヲ行フ
天最度	19.5	21.5	19.0	15.5	21.0	21.5	18	17	21.0	
主要訓練作業	石炭搭載(五〇トン)	分隊兵檢部署教練	船体兵器機關手入	補習教育(航運)	船体兵器短艇機關手入	船内消毒大掃除防火教練	船体兵器機關手入	配置教育補習教育砲	短艇手入	載炭(ハートン)
在泊外國艦船	* Malacca	* Mindanao, Malacca	* Agano	* Malacca, Agano 出港	* Malacca, Mindanao	* Seamen	* Mindanao			
記事										

第二軍艦差我自昭和七年十月十日
山至全 音行動所在訓練作業實施概要

(終)

二十日

十九日

附録第一

廣東各區綏靖委員會公署組織條例（一月十日公布）

一、廣東省內之綏靖事宜實施之為中山縣及瓊崖全屬（海南島）ヲ除ク各屬地方ヲ中、東、南、西北ノ四區ニ劃分シ每區ニ綏靖委員一名ヲ置キ

中區綏靖委員ハ 廣州 恩平 開平 各縣市ヲ

東 〃 〃 惠、潮、梅

南 〃 〃 高、雷、欽、廉、

瓊 〃 〃 肇、羅、陽、南、韶、連

統轄セシム

綏靖委員ハ第一集團軍總司令ヨリ高級軍事長官ヲ選擇シ國民政府ニ呈請シ之ヲ任命ス

二、綏靖委員ハ第一集團總司令及省政府ノ命ヲ兼テ區内ノ綏靖ヲ辦理シ地方自治事宜ヲ督辦シ且區内各

九

級文武官吏又一切人民武装團體ヲ監督指揮ス
 三 綏靖委員公署ニ參謀長一名ヲ設ケ綏靖委員ヲ
 輔佐シ全署ノ人員ヲ監督シ一切事宜參贊見セシム
 參謀長ハ綏靖委員ヨリ第一集團軍總司令ニ出請
 シ之ヲ任命ス

四 綏靖委員公署ノ編制尤如シ

處 名	重要職員	職	掌	任 命
秘書處	秘書 二名	綏靖委員	機密及政務兩項事務	綏靖委員ヨリ
軍務處	處長 一名 科長 二名	命令參謀	參謀及副官事務	第一集團軍總司令ニ呈請
軍法處	處長 一名 審判員各官獄吏	指導ヲ受ケ	軍法刑事案件及監獄事宜	之ヲ任命ス
總務科	科長 一名	受ケ	庶務會計及各處事務	

五 綏靖委員公署ハ特種事務執行ノ為メ特務員若干名ヲ
 置クフトヲ得

六 綏靖公署ノ職員ハ軍事長官所轄司令部ノ職員ヲ以テ兼任セシムル事ヲ得

七 本條例ハ第一集團軍總司令ヲ國民政府ニ呈請シムル許
ノ後公佈施行ス

附録第二

廣東各界抗日會登記日貨發賣條例(二月十四日公佈)

一 登記日貨通過証ヲ定メ左ノ三聯根(三ツ根ヲ有ス証書トス

甲 隨貨存根(控) 賣者ヨリ買者ニ給與スルモノ

乙 大會存根 賣者ヨリ賣却五日以内大會ニ呈出シ

會員之ヨリテ商舖ニ行キ検査(スルトキニ

用フルモノ

丙 商號存根 商舖ニ賣却控トナスモノ

ニ本証ハ已ニ發賣日貨ヲ登記セル正式ノ店章ヲ有スルモノ

ノカ直接本會ニ來リテ請求スルモノニ配布ス

六本証ハ唯廣州市内ニミテ有効トス若シ他處ニ轉運セントス
ルトキハ須ラテ隨貨存根ヲ本會ニ持參シ運銷証ト取換ノ
上之ヲ運銷スヘシ

四本証ハ仇貨ノ密賣密運ヲ防ク爲メニ制定シタルモノナレバ
賣買ノ多少ニ拘ラス必ス証貨相一致シ制定樣式ニ隨ヒ
登記期日ヲ明確ニ記入シオキ書換及遺漏等事アルハス
五登記仇貨ヲ賣リ盡シタル者ハ必ス本証ノ整理ヲ完善
ニシテ本會ニ返納スヘシ

六本証ニ大會印章及調査組主任印ノナキモノハ無効トス
七本証ヲ配給セシタル后本條例ヨリ辦理セサルモノハ大會
ニヨリ嚴重ニ處罰ス

八本條例ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ増改ス

附録第三

西南政務委員會組織條例（二月十四日公布）

第一條 國民政府の四全會議決案に基づき西南政務委員會（以下
政務會ト略ス）ヲ設ケ本會ハ國民政府ニ直隸シ西
南區域内ノ行政及審計事宜ヲ監督指揮ス
（一）内政（二）軍務（三）財政（四）交通（五）實業（六）教育
（七）司法行政

第二條 政務會ハ西南各省ヲ其ノ管轄區域トス

第三條 政務會ハ政務會議ノ決議ヲ經テ各機關ヲ増置
或ハ裁併スルコトヲ得

第四條 政務會ハ委員十五名乃至二十名ヲ設ケ五名乃至七名
ヲ常務委員ニ特任ス

第五條 政務會ニ秘書處ヲ設ケ秘書長一名秘書五名
乃至七名科長三名乃至五名科員及書記若干名ヲ

任命ス

第六條 政務會ニ審計セリテ該ケ處長一名 審計五名乃至七名 協審八名乃至十二名 執督察六名乃至十名 科員十六名乃至二十名 書記官九名乃至十二名ヲ任命ス

第七條 政務會ハ専門委員九名乃至十二名ヲ該ル事ヲ得

第八條 政務會ハ每週一回 政務會議ヲ開キ 常務委員輪

番之ガ主席トナル

第九條 左記事項ハ政務會議ニ決議シテ之ヲ行フ

一 行政司法審計官吏任免

二 省ト省トノ間ニテ能ク解決セザル事

三 豫算決算ニ関スル事

四 其他法令或ハ常務委員ニテ決議スヘキモノト認めラル事項

第十條 政務委員會ハ中央法令ニ抵触セザルハ範圍内ニ於テ

命令及單行規則ヲ發佈スル事ヲ得

第十三條 政務會議ノ決議各案ハ國民政府ニ報告スルト共各
別ニ行政院或ハ監察院ニ呈出スヘシ

第十四條 政務會ト中央各院部ト其權限上ニ於テ爭議ヲ發
生シタル時ハ國民政府ニリテ之ヲ解決ス

第十五條 秘書長及審計處長ハ均シテ政務會議ニ列席スル事ヲ得

第十六條 政務會議規則及秘書處審計處組織條例ハ別

ニシテ定ム

第十七條 本條例ニテ若シ盡ササル事宜アラハ國民政府ニ

提出請示シテ修正ス

第十八條 本條例ハ公佈自ヨリ施行ス

附録第四

中央執行委員會西南執行部組織大綱

第一條 本執行部、自全大會第十次會議、決議案ニ基キテ

之ヲ組織シ西南各省市黨務ヲ指揮監督整理ス

第二條 本執行部、西南各省ヲ其ノ隸屬區域トス

第三條 中央執監委員ニシテ執行部所在地ニアルモ均シク

執行部委員トナリ委員中ヨリ五名乃至七名ヲ常務委員

ヲ推定シ常務委員會ヲ組織シ日常事務ヲ整理ス

第四條 本執行部常務委員會ニ秘書處及左記各組ヲ設ク

一 組織組 二 宣傳組 三 海外組

秘書處及各組ノ組織條例ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 本大綱ハ中央執監委員聯席會議ノ議決ヲ施行

ス若シ盡ササル事宜アラハ本部所在地委員三分ノ二以上

ノ決議ニヨリ之ヲ修正ス

(終)

極秘

RECEIVED

0072

嵯峨機密第三四號

昭和七年二月一日 廣東

第一果 局員

嵯峨艦長

廣東警備旬報 第六號

自昭和七年一月廿一日至全

報告 送附先

馬要
海軍省軍令部佐鎮
一遣二遣上海南京
旅順青島北平台北
北上第二五艦第二七艦

二月一日報告

馬要
7.2.16
受取

單
7.2.16
一月

8400

目次

第一 敬言備關係重要記事

第二 主要訓練作業

第一、警言備關係重要記事

月
日
項

重

要

記

事

三

一 本艦一五〇。廣東ニ向ケ香港發、一七三。大産島假泊

三

二 本艦九〇。假泊地發、一五〇。廣東着

三

一 本日共和報(黨派關係ナレ、發行部數約五千、因舎相千
小新聞)勇哉李鳳章ト題シ

亡國朝鮮、熱血田方子、李ハカイゼル奈公羽ニモ比スヘキ

日王ニ對シ壯典ヲ企テ不才失敗セルモ、此ノ不朽憂國ノ

士ノ暗殺成功セハ世界ノ為メニ暴君ヲ除キ、國家ノ為メニ

懋彰憤ヲ晴スヘシ

ト、敬記事ヲ掲ク

總領事ハ早速市長ニ面會ヲ求メ、左記四項ヲ要求セル

一、市長ハ共和報社長ヲ戒飭シ將來此種ノ不敬記事ヲ

及覆セシメサル事ヲ保障スル事

ニ共和報社長ハ直接責任者ヲ嚴訓シ、總領事ニ通知スル事

ニ共和報ハ其紙上ニ本記事ヲ取消シ且之ニ對スル陳謝記事ヲ掲クル事

四市長公文ヲ以テ本官ニ對シ遺憾ノ意ヲ表スル事

市長領事ノ通告ニヨリ始メテ之ヲ知リテ慨歎シ、兎ニ角青島、上海、如キ事態ヲ極力避ケ度意旨ヲ速ヘ且ツ余リニ嚴重ナル處置ニ出スルニ於テハ名モナキ新聞ヲレテ、名ヲ賣ラレムルト共ニ民衆ヲ激成スルコトナルニ付キ貴方ノ要求ニ對シテハ誠意ヲ以テ當ルヘキモ此ノ矣諒永アリ度キ旨申述ヘタ刻香港ニ總領事ハ取敢ヘス右四項ノ貫徹ヲ期スルト共ニ一方右以外ニ於テ接衝スヘキ事項ニ付キ政府ニ請訓セリ

備考爾後交渉經過並解決要領ニ關シテハ別ニ嵯峨
情報第一四號ヲ以テ詳報ス、

ニ第三軍長余漢謀、韶州ニ於テ西北區綏靖員ニ就職ス、

三國民救國會廣東總會成立シ左記ヲ決議ス、

一馬台山軍及東北義勇軍ニ勇力奮闘抗日ヲ電請ス、

ニ政府ニ對シ張學良ノ懲辦ヲ電請ス、

三全國海內外同胞ニ對シ武裝蹶起打倒帝國主義ヲ、全

國將士ニ一致奮備對日決戰ヲ電請ス、

四本會ノ組織原案ヲ確定シ省ニ總會ヲ、若干縣及重

要都市ニ支會ヲ、縣ニ分會ヲ、縣ノ下ニ區分會ヲ設ク

尚今日執行委員十五名、監察委員五名、ノ外候補委員

等ヲ選出セシカ、其ノ顔融並其他ヨリ考察シテサレタル勢力モ

ナク、餘リ重要視スヘモノニ非スト認ム、

二 新任中山大学校長鄒魯 廣東省(二日)就職ス 三 佛羅リConstant 艦長ハ公式來ハ訪ス	五 一本職全右ニ公式答訪ス 二 子右仁唐紹儀ト會見ノ爲メ中山縣ニ向ケ廣東發 廿七日中山縣ヨリ香港ニ赴ク 三 廣東各界抗日會検査仇貨委員會ニ内紛アリ全會ハ 検査主任彭某ノ檢典ヲ廣東省市黨部ニ呈請セリト (新聞報) 四 伍朝樞本日香港ニ赴キ胡漢民ト面談後廿六日中山縣ニ赴ク 五 胡漢民香港ニ於テ南京金陵大學ノ敦促胡漢民團代 表ニ面會左記要旨ノ回答ヲナレ北上ヲ拒否セリト(新聞報) (一) 病尚未癒 (二) 現在政制改革サレ行政院ハ責任内閣ニ等シケレハ政府
---	--

既ニ負責ノ人アリ余北上ノ必要ナレ (三)余前ニ留京三年ニテ月國是ニ對スル余ノ建議ハ各方面ノ 容ル所トナラサリキ今入京スルトモ何ソノ貢獻スル所アラハ 今ヤ多ク同志在京スニテ國難ヲ解決スルニ足ル何ソノ必スレモ 若レンテ入京セム若在京各同志ニシテ國難ヲ解決スル 能ハスニハ余入京スルトモ亦辦法ナカルヘシ云々	ニ六 中山大學請願團約ニ五名南京ニ向ケ發廿七日香港 發北上ス ニ 市長本目所屬各機關ニ對シ左記西文ニ目ノ通令ヲ發ス 國難來ルノ際外交事務ハ特ニ慎重ヲ要スルニ付キ爾後 外外交文件ハ市長躬ツカラ査閱ヲ經ル非スニハ發表スル能ハス 本通令ノ發佈ハ共和報不敬記事問題ニ對スル我要求一端ノ 表ハレト認ミラル
--	--

三十一 西南各省國民對外協會ハ本日南京中央党部、廣州西南執行部、及西南政務委員會宛左記要旨ノ通電ヲ發シタリ 今ヤ東北四省暴日ノ跼凌ニ沈淪シ政府ニ救亡ノ準備ナシ諸賢宜シク蔣ノ錯誤方針ニ惑ハサル事ナク速ニ對日絶交宣戰ノ大計ヲ建テ國家民族ノ爲メ奮闘シ黨國ニ危害ヲ貽ス事勿レ	三十二 第四軍第十二師(師長吳奇偉)所謂北上援黑軍、本日全部桂林ニ集中シ、湖南省南方ニ向ヒ前進スト云フ 本部隊ハ張發奎麾下現有唯一ノ部隊(左程有カナルモノ非ス)ナルカ假令湘南ニ進出シタリトスルモ其名ノ如ク北上スル事ハ決シテナカルヘク、湘桂、粵省境ニ據リテ桂軍ト連絡ヲ保チツツ、事アルノ時粵北ヲ窺ハトスルニ非スヤト觀察セラル、
---	--

三 南京中央政治會議ニ於テ廣州政務委員會ヲ正式ニ承認ス

三 白崇禧梧州ニ向テ發シ、自ハ廿九日梧州着飛行機ニテ南京ニ赴クアリイフ

桂軍目下銳意空軍ノ擴張ニ努メツツアリトノ説、頻リニ傳ヒ、折柄、自、般桂ハ相當注目ニ價ス

三 一 香港漢字紙、東方日報、向フ四週間發行停止ヲ命セラレ、本日ヨリ停刊ス

右ハ本紙カミズル日廿五日、櫻田門事件ニ關シ敬記事ヲ掲ケタルヲ以テ、即日我々香港總領事ヨリ英國政廳當局ニ對シ、注意ヲ喚起セシメヨリタルモノト認メラル

三 廿八日深夜ニ於ケル上海衝突事件ノ詳報(香港各新聞ハ本日午前二時迄ノ情報ヲ稍ニ正確ニ特筆大書ス、當地本日

各新聞ニ本件關係記事全然ナレシ本日午後ニ至リ市民一部ニ知レ渡リ幾分動搖ノ色アリシモ一般ニ平靜ナリ
 三 英總領事我總領事ヲ來訪シ上海ノ急迫セル事態ニ關シ
 談話交換後

當沙面ハ警言備薄弱ナルニ付キ事態危險惡ノ兆アル際ハ
 成ルハク早目ニ日本居留民ヲ引揚ケヲ希シ王ス

ト陳述セラレテ我總領事ハ

當地支那官憲カ從來通り我ニ對シテ誠意ヲ繼續スルニ
 於テハ我モ亦彼等ト接觸ヲ密ニシ極力當方面事態
 ノ激化ヲ防キ若シ不幸ニシテ突發事件等若シ起シ
 危險ヲ感スル場合ハ政府ニ請訓ノ上處理スヘシ

ト回答レオケリトイフ

三 一 上海事變ニ關シ諸新聞一斉ニ特筆大書シテ恰モ日本軍

二

敗亡セルカ、如キ誇張捏造記事ヲ掲ク

陳済棠ハ陸海空軍將領連名テ第十九路軍ニ激勵ノ電報ヲ送レル外、南京政府ニ對シ

速カニ各路大軍ヲ増援シ最後ノ勝利ヲ獲得スヘシ

ト電請セルカ、反聞スル處ニヨレハ陳ハ内ハ頗ル不安焦慮ノ色アリトイフ

三 本市市政村秘書總領事ヲ訪ヒ

目下民衆相當激昂セルニ付キ、公安局ヲ督勵シ敬言戒ニ萬違算ナキヲ期シタルニ付キ、貴國人ニ於テモ此際其ノ言動ニ對シ十分注意アリ度シ

ト語レリト

四 本朝來學生抗日會、反日字幕新ニ市内目拔ノ場所ニ表ハレモ、特ニ異狀ヲ認メス

五、公安局長香翰屏本日當地各新聞記者代表約二十
 余名ヲ招致シ左記要旨ノ訓示ヲナセリト（新聞報）

對日時局急迫ノ際、新聞ヨル宣傳ハ其ノ影響スル處大
 ナルニ付、特ニ左ノ二點ニ關シ深甚ノ注意ヲ望ム

一、戒嚴令撤銷後目下公安局ハ新聞記事ノ檢査ヲ
 ナシテオラサルモ、爾今國際關係記事ニ關シテハ、特ニ慎
 重ノ態度ヲトリ、公正ナル批判ヲ謬ラス、有力ナル輿論ノ

喚起ニ努ムヘレ

ニ外人侵犯ニ對シテハ能ク民衆ヲ指導シテ、認識ヲ謬
 ラシメズ、正當ノ抵抗ヲナレ、輕率ニ妄動シテ、不慮ノ

禍ヲ招ク事アルヘカラン

今ヤ日人己ニ華北ヲ強佔シ、且將ニ華南ヲ鯨吞セムトス
 上海事件ヨリ其ノ一斑ヲ窺フニ足ル、福州、廈門、

廣州各地亦日人示威舉動アルヲ免レ難キヲ明覺ル
 但本省當局アルニ相當ノ防衛アルハ決シテ敬言惶失
 損益ナカラム事ヲ望ムニ云々

三 本日英總領事又々我總領事ヲ來訪シ

當沙面ノ租界ハ香港ヲ領有スル關係上、多大ノ
 犠牲ヲ拂ヒ維持シ居ル次第ナル處、日支ノ事態急
 迫シ居ル今日、日本人ノ當租界在留ハ防備ノ具
 コリスルモ誠ニ不安ニ堪エサルニ付キ、成ルヘク速ニ引揚
 ヲ希望ス、貴國政府ニモ可然御取次ヲ請フ

五日 陳速セリト、

中央政府ハ北方移動ト共ニ宣戰布告說等流布セラレアリ
 總領事ハ万一場合ニ至スル為メ左記邦人ヲ揚準備ノ手
 配ナセリ

- (一) 沙面在住邦人へ引揚ヶ準備ト支那街居住者へ沙面避難勧告
- (二) 廣東總領事管内邦人海關員へ休暇形式ヨリ香港引揚待機勧告
- (三) 引揚用邦船ノ當地回航手配

9800

日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
三	二	一	二	三	四	五	六
日	土	金	木	水	火	土	日
東							廣
24.0	24.5	23.0	17.5	18.0	19.0	22.5	20.8
休	大掃除 兵器機開午入	船体兵器機開午入	船体兵器機開午入	船体兵器機開午入	船体兵器機開午入	船体兵器機開午入	船体兵器機開午入
業	業	業	業	業	業	業	業
在泊	在泊	在泊	在泊	在泊	在泊	在泊	在泊
外國艦船	外國艦船	外國艦船	外國艦船	外國艦船	外國艦船	外國艦船	外國艦船
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事

第六昭和七年自一月廿一日至三月廿一日軍艦差戒行動訓練作業實施概要

三驅機密第四ノ號

軍務局

副官

二月十五日進達

馬谷部官印

局長

第二十七驅隊厦門敬言備報告

昭和七年 自二月三十日 至二月十二日



7.2.15 月 日

馬要 7.2.15 受接

第二十七驅逐隊廈門警備報告

(一) 行動概要

自昭和七年一月三十日
至昭和七年二月二日 菱 堇 (梨)
自昭和七年二月三日
至昭和七年二月八日 菱 堇 (梨)
自昭和七年二月九日
至昭和七年二月十二日 菱 堇 (梨)

一月二十八日 菱 堇 (馬要司令官菱 堇 乘艦) 福州より廈門へ回航

一月三十日 二十五駆逐隊樫汕頭へ向々出港、二十五駆逐隊ノ梨木ト共ニ
第一小隊 (菱 堇 堇) 廈門警備ニ任ス

二月三日 菱 堇 馬公司より廈門へ回航 (馬要機密第一九番電)

二月九日 梨 厦門より汕頭へ回航 (馬要機密第六番電)

二月十二日 菱 厦門より馬公司へ回航 (馬要機密第四番電)

(二) 敬告備日誌

一月三十日 (日) 正午天候晴晴雨計七六七氣温二風向ww風力二
一、訓練作業 配置教育、午前午後半艇陸上運動陸上陸 (鼓浪島)
二、在場國軍艦 中國軍艦 永績 海徽

三 廈門状況

上海ノ報道誇入ニ新聞等ニ發表セシ一版市内情勢ハ昨日ト大差無シ

糧食受入ニ関シ

本日午後二時馬場商店(糧食卸商人)食料納入爲ニ舢板貸モーターボート借用シ拒絶サレ不得己悔澤砂浜ヨリ漁船ヲ雇ハ漸々目的ヲ達シタリ

四 發 信

菱書三番電厦門情報三十一日午後八時(死馬要司令官)不敬記事記載厦門商報ハ二十九日休刊三十日シ刊ニ謝罪文ヲ掲ゲ其後休刊民國日報ハ命令ヲ聞カザルヲ謝罪文ヲ掲グルト發行ヲ停止サレタリ

五 着 信

一版市内清勢昨日ト大差ナシ

馬要機密第九番電三十一日午前十時(發馬要司令官)馬要機密第七番電中第三七驅逐隊ノ厦門發ヲ二月一日ニ改メ本年ノ厦門回航ヲ取止ム

昨ハ二月一日汕頭發厦門ニ回航スベシ

馬要機密第四番電三十一日午後七時(發馬要司令官)第三七驅逐隊第一小隊ハ二日午後〇時(正午)入港スル如ク行動スベシ

二月一日 (月)

正午天候晴晴雨計七六七氣温八八風向東風力三

一 訓練作業

大掃除午前中艦陸上運動上陸司令陸上視察不

二 左側外國軍艦

右ニ全シ

右
全

表着信

二月二日(火)
訓練作業

三 邦船出入
二 外國船舶

馬要機密第七番電
市內平穩

馬要機密第七番電二日午前八時（發馬要司令官）
當分内海軍省ニ於テ發表スモ、外聯合艦隊並ニ事變ノ
麾下各艦關係ノ海軍艦艇ノ行動ニ關スル一切事項ハ
發表ヲ禁制セシメタリ

（海軍省副官 七六番電一日午石十一時）
馬要機密第六番電二日午前九時（發馬要司令官）
一利本ハ本日厦門發山頭ニ回航スヘシ

（馬要機密第八番電二日午前十時（發馬要參謀）
茲ニ二日午前七時發午後三時三十分厦門着マシテ
馬要機密第一番電二日正午（發馬要參謀長）

一既報軍務局長レリ申進次第モリ時局ヲ南支方面ニ擴大
スルコトヲ嚴ニ慎重ニサレハタラサレテ海軍則ニ於テ態度ヲ慎重
ニ嚴スヘキハ勿論左西邦人籍民ノ言動ニ對シテモ領事ト協
調事務發生ヲ未然ニ防止スル様努メラレ度又万一國交斷
絶テ發シ生シル場合ニ先ツ居留民ノ引揚ガ急ギ海軍
トシテハ極力ニ羈絆ヲ少クシ自由ノ立場ニアリテ行動スルヲ得テ不
事態ノ程度ニ依リ一部居留民ノ殘留ヲアルモ此ノ現地ニ於
テ保護スル事ニ關シテハ慎重ニ考慮後ニ到リ抜キ挿シナラヌ

破滅ニ陥リ遂ニ武ヲ穢スル如キトナキ様注ミ息アリ度
一事態ニ變化シ場合大那軍艦路ニ航路上ニアハ砲台ニ
ニ處スベキヤニ就キテモ予メ考慮シ置クレ度
以上命ニ依リ

馬要機密第一五番電二日午後八時(發馬要司令官)

二月三日(水) 正午天氣晴晴雨計七六七ニ氣溫一九風向東風力ニ

一訓練計畫 部置者教練 配置教育

二在船外國艦艇 右ニ合シ 茲年午右四時入港

三廈門状況 上海ニ於テ支那軍大勝ノ報モ支那側一流ノ宣傳ニ過ギザルコト
漸々判明シ一月二十九日三十日頃最モ盛ナリシ戰勝氣分モ

醒メ支那當局ノ嚴重ナル態度ヲ相俟テ市中ハ大体手常狀態
復歸セルモト認メラル

尤モ市中ニ日本軍ノ廈門入港ノ謠言行ヒ不安ニ抱ケルモアリ(在馬)

外人ニ多シ

發信

茲年五月五番電 廈門情報(三日) 是迄(先馬要司令官)

上海ニ於テ支那側大勝ノ報モ支那一流ノ宣傳ニ過ギザルコト漸々

判明シ盛ナリシ戰勝氣分モ醒メ支那當局ノ嚴重ナル態度ヲ

戒ト相俟テ市中ハ大体手常狀態ニ復セルモト認ム

二月四日(木) 正午天氣晴晴雨計七六四五氣溫二七五風向東風力一

右
ニ
全
ジ

日本軍分厦門ヲ占領スベシト謠言

石臼無聲石壓果居石引渡石

信

菱機窓第七番電四日午後九時（元馬要司令官）

廈門清報一四日 辛亥

市中云、尚日本軍が厦門を領し、謠言アリ又外人側ニ日本砲名
無電、電氣の引渡ヲ迫レリ、今專アリテ英領事ヲリ質シ
来リ領事自下文那側ニ治安維持ニ申入レ人氣鎮靜ニ
努メツ、アリテ今回戦争入捲ラ刺戟余ク強キニ返ヤカハヤシ
慮リ居レリ

正午天候晴雨計七十六氣溫一四六風向東風力五

二、在內外國軍艦

石
令

厦門狀元市內平穩

二月六日(土)正午天候晴雨計七六八氣燭一五風向東北風力二

一訓練作業保安教練大掃除
保存手入。
二在旧外國軍艦
右：今シ

三厦内状况

國發

其受並自第六番電六月午後七時（尤馬要司令官）
廈門情報（六月廿）

一昨五日、中南銀行相率取付ニ會、原因ハ上海側、爲メ
 多ク、反は、決、策、動、カ、未、ダ、不、明
 二本日者新聞及市中ニ、過、沃、司、令、官、自、殺、セ、リ、ト、掲、示、セ、リ
 三市内引續キ沈靜
 四馬要機密第三番電（六日午前十時）（發馬要司令官）
 上海方面、情勢ニ鑑ミ、此際特ニ自、重、ス、ト、モ、六、三、聲、言、セ、シ、最、マ、シ、
 二月七日（日）正午天氣曇晴雨計七、七、六、氣、温、一、三、五、風、向、北、東、小、力、一
 一訓練作業、劍道、銃、劍、術、競、技、（隊内）
 二在留外國軍艦、右ニ、全、シ
 三廈門情況、市内平穩
 二月八日（月）正午雨晴雨計七、七、三、氣、温、一、七、風、力、〇
 一訓練作業、配置教育、停存、午、入
 二在留外國軍艦、右ニ、全、シ
 三邦艦、出入、土、明、廣、東、丸、（大、及、局、船）入、港、午、右、廣、東、丸、出、港
 四廈門情況、市内平穩
 五着、信、馬、要、機、密、第、四、番、電、（八日午前二時）（發馬要司令官）
 一今次、各、隊、集、合、機、ヲ、利、用、シ、進、級、試、驗、（特、期、日、ヲ、指、定、
 セ、シ、ス、モ、ラ、除、ク、ヲ、施、行、シ、置、ク、レ、度、
 二當、分、四、廈、門、ヲ、第、二、七、號、巡、泳、頭、ヲ、第、二、五、號、巡、泳、人、受、
 特、ト、シ、各、隊、一、體、完、輪、番、ニ、テ、補、給、爲、馬、公、ニ、販、港、セ、ン、メ、ラ、ン

馬要機密茅三番電八日午石三時(發馬要司令官)
 利本便宜厦門發汕頭三回航スレ
 二見九日(火) 正午天候雨晴雨計七六七七氣温一六風向東凡力一
 一訓練作業 配置教育 被服点檢
 二艦艇動靜 午石六時梨汕頭三回ヶ出港
 米國駆逐艦二四四 午前十時入港
 三邦船出入 午前十時鳳山丸(大改商船)入港
 四在泊外國軍艦 中國軍艦 永績 併發 米國駆逐艦二四四號
 二日十日(水) 正午天候曇晴雨計七六八八氣温一六風向東凡力一
 一訓練作業 配置教育 補修教育
 二邦船出入 午石廣東丸(大改商船)入港
 三在泊外國軍艦 石二合
 四厦門状況 市内平穩
 二日十一日(木) 正午天候晴晴雨計七七一九氣温一三五風向東凡力一
 一訓練作業 滿艦飾 遙拜式 勳章授與式 講話武技
 在泊中國 米國艦艇滿艦飾行
 二在泊外國軍艦 右二合
 三厦門状況 市内平穩
 四發 信 芝善第七番電十一日午石十一時(發馬要司令官)

厦門情報(十日) 芝罘

林司令ハ七日市公安局長ニ上海事件各地ノ事件ニテ未ダ決
日宣戦ナラ厦門ニ關係ナキヲ此際治安維持ニ最モシキ事件
差起方止ニ及動派ニ未動ニ非ニ最モ注意ス様命令セリト
一市ノ秩序維持穩健

二月十日金正午表候晴晴雨計セモ四氣極二六風向東凡力一

一訓練作業進取試験保存年入

二艦艇ノ動靜 二十石十時芝罘馬公ニ向ケ發

三在四外國軍艦 右ニ全シ

四厦門状況 市内ノ平穩

五看 信 馬要機密第三一者電十二日午四時十分(癸馬要司令官)

第七七號通函司令官傳給馬第一小隊一艦ヲニテ馬公港ニ
賑港セムヘン

三 一般情況

(一) 排日運動

新聞不敬記事掲載事件ハ推古田中既ニ解決見ユカ其ノ事實
行國ニテ支那當局ノ嚴命ニテ停刊並罪文ノ掲載行々全ク
解決其後抗日救國會運動トシテ何モ見ユキモ無シ日貨
標封ニ關シテモ昨午未ダ二月五日迄ヲ限リ姑メ居リ所期限経

過た今日、元々尚未ダ黙許、状況ニテリ、厦門大學、本月十日、南校
 予是ヲ三月十二日、南校延期等排日運動、漸次良好状況ニ向
 ヒツアリ
 司令部、威令、分付渡リ居ル、其ニ原因ナリト認ム
 上海事件、影響
 上海事件、報道、支那側、大勝ヲ誇大ニ報道シタル為、一月三十日
 ニ、ハ、二日、於テ、抗日氣分、漸次濃厚ヲ加ヘツ、アリシモ、支那側、流
 宣傳ニ、易ギザル事、判明ス、及び、三日頃、支那當局、嚴重ナル聲
 戒ト相俟テ、平靜ニ來セリ
 然レ共、其後、一方ニ、特ニ外人側ニ於テ、日本軍、厦門ヲ占領シ、ト謠言
 傳ヘリ、多少、民心、動搖ヲ認メ、モ、日ヲ経ルニ、隨ヒ、靜穩トナリ、平素ノ
 状態ニ復セルモト認ム

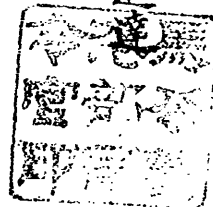
(終)

秘

嵯峨情報第一號

二月十七日進達

副官



二月三日報告

昭和七年二月三日

廣東

第一課長

大野

嵯峨艦長

◎事件。南支

不敬記事事件經過概要

報告先
送附

馬要
海軍省軍令部佐鎮
一遣二遣上海南京
旅順青島北平台北
北上第五艦隊第七艦

軍務局受
7.2.29
月・日・時

要
7.2.
受

頁二十三 共和報(党派色彩ヲ發信部數約五千、因舎相子小新聞)
ニ面カズレテ哉李鳳章ト題シ

亡國朝鮮ノ熱血男兒太子ハ烈ニ、独逸ノカイゼル、佛ノナポレオン
ニ勝ルヘキ、日皇ニ對シ壯志ヲ企テ、不幸失敗セシモ、此ノ不効憂
國ノ士暗殺成功セハ世界ノ為メニ暴君ヲ除キ、國家ノ為メニ懋績ヲ
晴ラスヘシ(原文附録第二)

トノ不敬記事ヲ拘ケタリ

右新聞ハ日本人間ニ配達シオラス總領事^(館)於テモ午後入手シテ之ヲ發

見シ總領事ハ早速折柄香港ニ赴カントレツツアル市長ニ面會シテ
求人事件ノ重大ナルヲ説キ、之ヲ難詰シ左記四項ヲ要求セリ、

(一) 市長ハ共和報社長ヲ戒飭シ將來此種ノ不敬記事ヲ及
覆セシメサル事ヲ保障スル事

(二) 共和報社長ハ本記事ノ直接責任者ヲ嚴罰シ總領事ニ
通知スル事

(三) 共和報ハ其ノ紙上ニ本記事ヲ取消シ且ツ之ニ對スル陳謝記事
ヲ掲グル事

(四) 市長ハ公文ヲ以テ本官ニ對シ遺憾ノ意ヲ表スル事

市長ハ領事通告ニヨリテ初メ之ヲ知り、慨嘆シ誠ニ不幸ナル出来事ナル
旨ヲ繰返シタル後、

兎ニ角、青島上海ノ如キ事能ク極力避ケ度キ意旨ナルヲ速ヘ
且、餘リニ強カナル起見ニ出ツルニ於テハ各ニナキ新聞ヲレテ名ヲ賣ラン
セト其ニ民衆ヲ激成スルコトナルヘキニ付キ貴方ノ要求ニ對シテハ
誠意ヲ以テ當ルヘキモ慎重考慮ノ要アレハ、何レモ之ノ收買ノ上
改メテ回答スヘキニ付キ此ノ旨ヲ諒スベキアリ度シ
ト申述ヘタ刻香港ニ向ヘリ、

總領事、取敢ヘス右四項、貴徹ヲ期スルト共、一方右以外ニ於テ折衝スヘキ事項、就キ外務大臣ニ請訓セリ。

二、

市長程天固、廿五日、般廣セルニ付キ、總領事ハ廿六日市長ヲ往訪シ、深甚ニ注意ヲ喚起セル處、市長ハ、

貴方

前計裁要、求ニニ、各項ハ既ニ手配済ナルカ、第三項ニ

關シテハ、全新聞社ヨリ、報界公會ニ附議シ、其ノ承認ヲ受

クヘキ、必要アル旨、回答レ來レルヲ以テ、暫ク猶餘ヲ請フ、

尚、第四項ニ關シテハ、既ニ口頭ヲ以テ繰返シ遺憾ノ意ヲ表

シ、居ル次第ナレハ、改メテ公文ニヨル必要ナカルヘシ、

ト答ヘタルヲ以テ、總領事ハ強硬ニ我方ノ要求ヲ主張シテ、市長ノ

誠意アル措置ヲ嚴重申シメリ、此日、會見ニ約三時間ヲ要シタリトイフ、

一方市長於テハ事ノ重大性ヲ愈々痛感シタルモカ、廿六日所属
各機關對シ左記要旨ノ通令ヲ發シテ、言論機關ノ取締ヲ
嚴重ニセリ

國難來ルノ際、外交事務ハ特ニ慎重ヲ要スルニ付キ、爾今
アラフル外交文件ハ市長躬ツカラノ査閲ヲ經ルニ非ハ發表
スル能ハス

註、右ニ關スル新聞記事、抜粹、附録第二

尚總領事ハ廿七日市長ニ會見ヲ求メタルモ、市長ハ共和報社
長トノ交渉未決ニシキ面會延期ヲ申出テタリ

三

一月廿八日總領事ハ三度市長ニ會見シ、我要求ニ對スル回答ヲ求メ
タル處、第一項以外未タ何等適確ナル處置ヲナレオラス、平身

低頭シ

(一) 貴方要求第三項ハ未タ解決シオラス

(二) 市長ノ公文謝罪ハ民衆ニ對スル思惑モアリ過去半歳ノ間
彈壓シ來レル民衆ハ今ヤ當局ノ軟弱外交ニ嫌ラス
内心大ニ激昂シオリ、彼ノ永漢路事件以上ノ事件勃發
ヲ保シ難キ有様ナレハ、貴國ト廣東當局ト、今日迄ノ
好友ニ免シ然ルヘク穩便ナル解決方ヲ切望ス

ト哀願的ニ合ヘタルヲ以テ總領事ハ

第三項ニ關シ報界公會若シ本項ヲ否決シタル場合ニ
於テモ、市長ハ之ヲ斷行セシムル意志アルヤ

ト突キ込ミタルニ、市長ハ

極力斡旋ニ努メテ十分貴意ニ副フヘシ

ト回答セシヨリ、我總領事ハ重ネテ

明日共和報ヨリノ市長ノ命ニ對スル回答文及市長ノ
トリタル上處置ヲ記シタル公文書ヲ受領シタル後、何分ノ
協議ヲ行フヘシ
ト達ハ敝館セル

四

一月廿九日總領事ハ市長ヨリ

不敬記事ヲ掲ケタルハ疏忽ノ至リニテ遺憾ノ至リナリ、該記事
ハ投稿者不明ナルニ付、キ當ニ極力之ヲ探究スヘシ、自今カ、

ル文件ノ掲載ニ對シテハ特ニ深甚ノ注意ヲ拂フヘシ

トノ共和報ヨリノ市長宛ノ回答文(附録第三)ヲ引用シ、且ツ、市長
ノ執リタル手段ヲ書セル公文書(附録第四)ヲ接受セルカ、文章ニ
缺クル處アリシヲ以テ電話ニヨリ之ヲ注意シタル處、市長ヨリ

本日香港ニ赴キ月曜(二月一日)版廣、處理スルニ付キ
諒美アリヌ

ト回答セリ

五、

一方公安局長ハ市長トモ協議上、各新聞記事取締リ、必要上、
一月廿日新聞記者代表約二十名ヲ招致シ附録第五ノ如キ訓示ヲ
ナレ、民衆ハ對日感情ヲ激成スルカ如キ記事ヲ掲載スル事ナキ様
嚴達スルト共、所屬各分局長等ニ對シテモ特ニ慎重ニ其ノ職
務ヲ遂行スヘキ旨訓示セリ

六

二月一日總領事ハ四度市長ヲ往訪シ我要求ノ貫徹ヲ強請セリニ